

情報共有

1枚 (非管理メモ)

訂正版 東京電力株式会社

※差替原貝います。 H23.9.4 14:13

NISA班 ← プラス対応チーム

広報班

プラント状況 (本店レク) 議事メモ

取扱注意 公開不可

日時：平成 23 年 9 月 4 日 (日) 11:00~11:20

場所：東京電力本館 3 階大会議室

先方：記者約 15 名 (カメラ 4 台)

当方：原子力設備管理部

広報部

配布資料：

- ・ 福島第一原子力発電所 プラント関連パラメータ (9月4日 6:00 現在)

よりプラント状況、配付資料に関して説明。

質疑：

Q. サリー・キュリオン・アレバに関する運用の検討について、進捗状況は。

A. 特段ご報告することはない。

Q. 急性白血病で亡くなられた方は、何次下請けの社員で、どのような雇用形態なのか。

A. 既に 8 月 30 日に知らせしているが、亡くなられた方は協力企業の作業員で 40 歳の男性。医師の診断では、今回の件は発電所作業と因果関係はないものと、協力企業から報告を頂いている。詳細な内容については当人の特定に繋がるため、回答は差し控えさせていただく。

Q. 福島第一原子力発電所では、延べ何時間働いていたのか。

A. 7 日間働いている。

Q. 累積の被ばく線量は。

A. 被ばく線量は 0.5mSv である。なお、内部被ばく線量については、作業が終了した時点で WBC にて測定を行い、0 mSv であった。

Q. 文科省が 9 月 8 日に、福島県内の土壌モニタリングの結果を発表しているが、福島県内のある地域で、チェルノブイリ強制退去区域と同程度の放射線量が検出されたとのことだが、この件について東電として公式な見解を公表しないのか。

A. 福島県や避難されている皆さまへはご迷惑をお掛けし、大変申し訳ないと思っっている。現在、事故収束に向けて全力を挙げて取り組んでいるところであり、関係各所とご相談しながら対応してまいる。

Q. 本件について、国と情報を共有しないのか。

A. 現在、事故収束に向けて全力を挙げて取り組んでいるところであり、関係各所とご相談しながら対応してまいる。

以上

情報共有

3枚 (非管理メモ)

東京電力株式会社

H23. 9. 4 19:40

広報班

NISA班 ← プレス対応チーム

プラント状況 (本店レク) 議事メモ

取扱い注意/公開不可

日時：平成23年9月4日(日) 18:00~18:30

場所：東京電力本館3階大会議室

先方：記者約25名(カメラ3台)

当方：原子力・立地本部

原子力設備管理部

原子力運営管理部

広報部

配布資料：

- ・ 福島第一原子力発電所の状況
- ・ 福島第一原子力発電所敷地内における空気中の放射性物質の核種分析の結果について(第百六十三報)
- ・ 福島第一原子力発電所取水口付近で採取した海水中に含まれる放射性物質の核種分析の結果について(9月3日採取分)
- ・ 集中廃棄物処理施設 サブドレン水核種分析結果(9月4日)
- ・ 福島第一原子力発電所 プラント関連パラメータ(9月4日 12:00 現在)

よりプラント状況、配付資料に関して説明。

質疑：

Q. けが人について、完治までにどの程度かかるか教えていただきたい。

A. 開放骨折の上、腱が切れているため、完治するまでは長期間かかると診断された。引き続き、安全管理を強化してまいりたい。

Q. 作業員の詳細について教えていただきたい。

A. 80歳代男性で協力企業の社員である。

Q. 3号機原子炉への注水状況はどう評価しているか。

A. 順調であると評価している。現在炉心スプレイ系から7m<sup>3</sup>/h、給水系から3m<sup>3</sup>/hで計10m<sup>3</sup>/h注水しており、炉内温度は減少傾向である。

Q. 炉心冷却の最終的な目標温度を教えていただきたい。

A. 中期的にはステップ2で冷温停止を目標にしている。短期的には、給水系からの注水を4m<sup>3</sup>/h、炉心スプレイ系からの注水を3m<sup>3</sup>/hまで下げ、全体で7m<sup>3</sup>/hとする予定。また、2号機についても炉心スプレイ系からの注水を検討している。

Q. 1号機も炉心スプレイ系から注水しないのか。

A. 1号機については、現段階で炉心スプレイ系からの注水についてお話できる段階ではない。

Q. 炉心スプレイ系からの注水が上手くいけば給水系からの給水は不要になるのか。  
A. 最終的に炉心スプレイ系だけで冷却が十分となれば給水系からの注水なくすことも考えられるが、シュラウドの外側から入れることで底辺から冷却も出来るというメリットがあるので一概には言えない。

Q. 炉内温度は何℃を目標に低下させていく予定か。  
A. 通常時の冷温停止は 100℃であるので、100℃よりももう少し下げたいと考えているが、まずはたまり水の低減を考えたい。

Q. もう少し下げたいというのは 80℃くらいか 50℃位か。  
A. 燃料の形状や温度は直接把握しているわけではなく、炉内温度により燃料を間接的に測定している状況なので一概には言えない。

Q. 温度により燃料の形状も分かってくるということか。  
A. 計測ポイントごとの温度変化等によってはある程度の予測にはつながると考えている。

Q. 原子力安全・保安院の会見でも話が出たが、水処理設備におけるβ線被ばくを踏まえ、今後、β線の核種分析は実施していくのか。  
A. 検討してまいりたい。β線を出している核種は、核分裂の際、原子の割合が多いストロンチウム 89 と 90 ではないかと考えている。現場でたまり水を扱うに当たり、どのような性状か把握することは大切であり、検討させていただきたい。

Q. RO膜装置ではストロンチウムも引っかかってくるのか。  
A. 先日β線被ばくしたのはRO膜でなく、前段にあるフィルター部分で引っかかったβ線に被ばくしたというもの。  
また、β線は粒子線と言われる種類であり、仮に体内に飲み込んだりすると、局部を被ばくをする可能性があるが、外部からの被ばくについては遮へいしやすい性状である。

Q. 格納容器からフィルターを通して放射性物質を取り出す件について、現時点の進捗状況は。  
A. 格納容器内の空気の循環については新たな進捗情報はない。なお、格納容器内の空気を循環させることは、格納容器の放射性物質を除去できる可能性と、また、空気を循環させることにより圧力容器から漏えいできなくする2つの目的がある。現在、より良い方法を検討中である。

Q. 4号機使用済燃料プールのライナードレンの水について、新たに確認できたことはあるのか。  
A. 使用済燃料プールと比較して塩素濃度が低いこと、また、ヒドラジンが検出限界値未満であることから使用済燃料プールから漏えいしていることは考えにくい、漏れてないと断言できる状況でもない。引き続き調査してまいりたい。

Q. ライナードレンラインへの流入源を判断するにはある程度の期間を必要とするのではないか。サンプリング以外の他の調査方法は無いのか。

A. ヒドラジンや塩素は水に溶けるので、ライナーから漏れていれば検出されるものと考えている。引き続きサンプリング調査をしているが、別の調査方法等があればお知らせしてまいりたい。

以上